

2024年1月16日[火] 13:00-16:45

京都大学百周年時計台記念館2F 国際ホール III

第1部:シンポジウム

開会メッセージ

「研究の社会的インパクトとインナーサークルについて」

石川冬木 [次世代研究創成ユニット長、プログラムマネージャー/
京都大学学術研究展開センター長/京都大学副学長]

若手研究者によるケーススタディ

「省庁・地方自治体との協業における心理学データの活用の視点から」

「教育心理学・行動遺伝学に社会的インパクトはあるのか?」

高橋雄介 [京都大学大学院教育学研究科/L-INSIGHTフェロー]

「脳とAI研究の社会的受容の変化・進化の視点から」

「異分野横断研究をどのように行うか

——神経科学と人工知能の融合研究を題材に」

高木優 [大阪大学大学院生命機能研究科 知覚・認知神経科学研究室/
情報通信研究機構(NICT)脳情報通信融合研究センター(CiNet)]

専門家による研究のトピックとインパクトの分析

「効果的な社会的インパクトのために産業、社会、政策のステークホルダーに研究をどう伝えるかの視点から」

「効果的な社会的・政策的インパクトのための科学コミュニケーション」

デーヴィズ・ブツ・ピーダスン [オールボー大学コミュニケーション・心理学科
人間中心科学・デジタル技術セクション]

「科学と政策やソーシャルメディアの関係についての最新の研究成果」

「学術書誌情報解析による研究トピックの国際的な時間差の観察」

浅谷公威 [東京大学大学院工学系研究科 技術経営戦略学専攻]

第1部 13:00-15:30 / 第2部 15:40-16:45

参加対象者 大学院生、PD、研究者、URA等研究支援担当者

形式 会場(グループディスカッション)/配信(Zoomにてコメント受付)

言語 日本語・英語(同時通訳あり)

参加費 無料

主催 京都大学世界視力を備えた次世代トップ研究者育成プログラム、京都大学大学院教育支援機構
共催 白眉センター、京都大学学術研究展開センター、京都大学欧州拠点

シリーズについて

国際的に解決すべき課題が次々に顕在化する現在、
学術と国際社会を接続する視点から研究テーマやキャリアを考える
若手研究者も少なくないでしょう。

本シリーズでは、世界で活動する若手研究者が、
自らの経験から得られた視点を一つのケースとして提示し、
全体と個、競争と共存のバランスを取りながらキャリアと研究課題を
いかに戦略的に展望するのかを参加者と共に考えます。

シリーズ第3回について

シリーズ第3回となる今回は、4人の登壇者と研究と社会の相互作用を考えます。
学際的な研究——行動遺伝学を取り入れた教育心理学、AIと脳活動の共通的な理解——に
取り組む若手二人は、学術的・社会的に新しい分野が直面する課題について話します。
また、研究の創造性やインパクトと政策や社会との結びつきを専門家二人が説明します。

データサイエンスが世界的に浸透する一方で、
研究環境や社会実装のあり方は文化圏によって異なります。
社会との関係を意識しながら研究を遂行するための観点を探ります。

参加登録 <https://forms.gle/Rd2oaeAoaCdquwCi6>

参加申込期限:2024年1月15日[月](正午)

申し込み多数の場合は早めに会場参加を締め切る可能性があります。



L-INSIGHTキャリアプログラム

若手研究者が データで解析する 人間と個性

Series:
Life as a Scholar
“Your home and beyond”

第3回

——遺伝、教育、AI、脳、研究の
社会的評価

Human and Diversity of Individuals Based on Data Studied by Early Career Researchers

13:00-13:05

開会の言葉

時任宣博[京都大学理事・副学長(研究・評価担当)]

第1部

若手研究者がデータで解析する人間と個性 —— 遺伝、教育、AI、脳、研究の社会的評価

13:10-13:15

開会メッセージ

「研究の社会的インパクトとインナーサークルについて」

石川冬木[次世代研究創成ユニット長、プログラムマネージャー/
京都大学学術研究展開センター長/京都大学副学長]

13:15-13:45

若手研究者によるケーススタディ

「省庁・地方自治体との協業における心理学データの活用の視点から」

「教育心理学・行動遺伝学に社会的インパクトはあるのか?」

高橋雄介[京都大学大学院教育学研究科/L-INSIGHTフェロー]

「脳とAI研究の社会的受容の変化・進化の視点から」

「異分野横断研究をどのように行うか
—— 神経科学と人工知能の融合研究を題材に」

高木優[大阪大学大学院生命機能研究科 知覚・認知神経科学研究室/
情報通信研究機構(NICT)脳情報通信融合研究センター (CiNet)]

13:45-14:15

専門家による研究のトピックとインパクトの分析

「効果的な社会的インパクトのために産業、社会、政策のステークホルダーに
研究をどう伝えるかの視点から」

「効果的な社会的・政策的インパクトのための科学コミュニケーション」

デーヴィズ・ブツ・ピーダスン[オールボー大学コミュニケーション・心理学科
人間中心科学・デジタル技術セクション]

「科学と政策やソーシャルメディアの関係についての最新の研究成果」

「学術書誌情報解析による研究トピックの国際的な時間差の観察」

浅谷公威[東京大学大学院工学系研究科 技術経営戦略学専攻]

14:15-14:45

登壇者とのグループディスカッション

「グループ・ファシリテーター」

金秀弦[京都大学大学院文学研究科]

畑美由紀[京都大学大学院農学研究科]

笹川創平[京都大学大学院生命科学研究科]

張国庆[京都大学大学院情報学研究科]

アナ・ベレンソ・バレラ・アギーレ[京都大学ヒト行動進化研究センター]

サミュエル・マッシュー・ギラオ・ドゥムラオ[京都大学大学院エネルギー研究科]

14:45-15:30

全体ディスカッション

「モデレーター」

鈴木雄太[科学技術振興機構(JST)/
京都大学物質-細胞統合システム拠点(iCeMS)]

第2部 15:40-16:45

ネットワーキング

前田珈琲による軽食(無料)つき

「乾杯の挨拶」

平島崇男[京都大学大学院教育支援機構長/京都大学副学長]

お問い合わせ

京都大学 世界視力を備えた次世代トップ研究者育成プログラム(L-INSIGHT)事務局
電話:075-753-5916 | メール:admin-l-insight@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

石川冬木 | ISHIKAWA Fuyuki

次世代研究創成ユニット長、プログラムマネージャー/京都大学学
術研究展開センター長/京都大学副学長

東京大学医学部医学科卒。医学博士(東京大学)。国立がんセン
ター研究所発癌研究部研究員、東京大学付属病院助手、コロラ
ド大学化学生物学部博士研究員、東京工業大学生命理工学部
助教授、同教授、京都大学大学院生命科学研究所教授などを
経て、現職。



石川冬木

高橋雄介 | TAKAHASHI Yusuke

京都大学大学院教育学研究科 教育認知心理学講座 准教授/
京都大学国際高等教育院 行動科学教室 准教授/L-INSIGHT
フェロー

東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻博士課程修
了。博士(学術)。京都大学高等教育研究開発推進センター、京
都大学デザイン学大学院連携プログラム、京都大学白眉セン
ターにおける任期付きの勤務を経て、2020年4月より現職。専門は、
教育心理学・発達心理学・行動遺伝学。人間の心理学的な特徴
や精神病的な症状の個人差について、その発達の諸相や発生
機序について明らかにしつうえて、それらの遺伝と環境の輻輳につ
いて示唆を得るための研究を行っている。



高橋雄介

高木優 | TAKAGI Yu

大阪大学大学院生命機能研究科 知覚・認知神経科学研究室
助教/情報通信研究機構(NICT)脳情報通信融合研究センター
(CiNet)協力研究員

2018年奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士
課程修了。2018年から2020年までオックスフォード大学客員研
究員 兼 東京大学医学部附属病院特任研究員。2020年から
2021年までJSPS海外特別研究員(スタンフォード大学)兼 東京大学
大学院人文社会科学部特任研究員。2021年から現職。システ
ム神経科学と機械学習の融合研究に従事。



高木優

デーヴィズ・ブツ・ピーダスン | David Budtz Pedersen

オールボー大学コミュニケーション・心理学科 人間中心科学・デジ
タル技術セクション 教授/オールボー大学ヒューマノミクス研究セ
ンター長

科学コミュニケーション、証拠に基づいた政策立案、人文社会科学
のインパクトに焦点を当てた研究に取り組み、国際機関や助成機関
での発表や政策への助言も頻繁に行っている。論文、モノグラフ、編
集書、政策報告書、論説コラム、新聞記事など約150件の出版業
績がある。EU欧州科学技術研究協力機構における科学コミュニ
ケーションに関する分野横断活動専門家グループの議長を務める。
2020年ヴィロム&ベレックス財団から「アルゴリズム、データ、民主主
義」に関する科学顧問に任命される。



デーヴィズ・ブツ・ピーダスン

浅谷公威 | ASATANI Kimitaka

東京大学大学院工学系研究科 技術経営戦略学専攻 特任
講師

2015年、東京大学大学院工学系研究科にて博士(工学)取得。博
士論文のテーマは社会シミュレーションで現在は計算社会科学
の研究に従事している。大規模な学術書誌情報を用いてイノベ
ーション創出の過程を研究する「サイエンス・オブ・サイエンス」が主な
関心。研究者が研究トピックを選定するメカニズムの解明に向け
て、各国の研究トピックの進展や遅延、政策と科学やソーシャルメ
ディアとの相互関係についての研究を進めている。また、都市や移
動に関するデータ解析も実施しており、関西圏のICカードデータか
ら同期的な移動を観測して友人関係を推定したり、大規模なレ
ビューデータを基に都市の地域構造や経済的な格差に起因する
行動の差異を明らかにしている。



浅谷公威

鈴木雄太 | SUZUKI Yuta

科学技術振興機構(JST)さきかけ専任研究者/京都大学物質-
細胞統合システム拠点(iCeMS)特定助教

ミシガン大学大学院にてPh.D.(Chemistry)取得。カリフォル
ニア大学サンディエゴ校Tezcan研究室にてポストドクターとしてタン
パク質デザインの研究に従事。帰国後、スタートアップ企業、京都
大学白眉センター 特定助教等を経て、現職。タンパク質を自在に
配列し、様々な形状の集合体を創り出すモジュール式タンパク質
集積デザインの確立を目指して研究を行っている。また、令和3年
度より学術変革領域研究(B)「SPEED」代表として新規タンパク
質デザインの創成を目指し研究を推進している。



鈴木雄太

